



碧南ロータリークラブ週報

第2339回例会 平成18年11月22日(水)

● 会長 杉浦健次 ● 幹事 石川春久 ● 会場監督(SAA) 棚田道和

■ 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール

■ 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90

TEL <0566>41-1100 FAX <0566>48-1100

ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>

E-mail: info@hekinan-rc.jp

■ 会報委員 角谷信二・新美惣英・清澤聡之

2006~2007年度
国際ロータリーのテーマ

LEAD THE WAY

率先しよう

できるひとが
できるときに
できるところで



● 斉 唱

ロータリーソング「ロータリー賛歌」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館



杉浦健次会長

会 長 挨拶

遅ればせながら紅葉の話題が花盛りとなってまいりました。どうぞ日本の秋をお楽しみ願います。さて、ロータリーの秋RI第2760地区、地区大会が去る11月18日、19日に開催されました。碧南RCからは40名と多くの方の登録参加を賜りロータリーを学んで頂きました。大変有難く感謝申し上げます。また、碧南RCがホストをいたしました2001年の大会を思い出し懐かしく楽しく参加することができました。第1日目の本会議は通常のセレモニーの後、ロータリーミーティングで佐古亮尊氏（95~96年度第2740地区ガバナー、大村北RC本経寺住職）の「ロータリーの森を歩くークラブ奉仕についてー」と題しての講演を拝聴いたしました。ロータリーの原点はクラブ奉仕、ロータリーの哲学は親睦と奉仕、ロータリーの奉仕は個人奉仕・個人研鑽・人格形成、例会出席を通して自己研鑽をし職業奉仕の実践者となれ…等々ロータリアンの根幹についてのご指導を頂き大変有意義でありました。RI会長代理歓迎晩餐会に石川幹事とともに参加をいたしました。宮崎茂和RI会長代理（98~99年度第2650地区ガバナー、福井RC、慈風会宮崎病院顧問）は大変まじめな方で開宴前の挨拶でも御手許に配布しました資料を配り「ロータリーとは何か」「ロータリークラブは何をするのか」「ロータリーの目的とは何か？」というRIメッセージをお話になりました。この晩餐会で「地区友好協定調印式」が行われました。本年8月のガバナー月信にも関連のメッセージが載っておりますが、斉藤直美ガバナーと同期の第2830地区（青森）の鐘ヶ江義光ガバナーが全国の35年間の例会出席率を調べたら第2760地区が95%前後の日本一の高出席率を維持していることがわかり80%強の第2830地区の出席改善をはかる為、斉藤ガバナーに地区協議会での講演を依頼されたのがきっかけとなり、両地区の今後の発展、交流促進の為調印となったとの事でありました。今後は青少年交流等も行いたいとの事でありましたのでご報告申し上げます。第2日目は、2006~207年度ガバナーエレクト江崎柳節氏（小牧RC）2007~2008年度ガバナーノミニエ片山主人氏（名古屋東南RC）の紹介、次年度地区大会ホストクラブ江南RCの紹介PRタイム等々の後、お目当ての奥田碩氏（日本経団連名誉会長、トヨタ自動車取締役相談役）の「世界の現状と日本の針路」と題しての講演を拝聴いたしました。世界の潮流、日本の課題を人・物・金・情報のグローバル化、人口問題、知識資源の成長、天然資源と環境、心の豊かさ等の角度より講師の交流の大きさ、視野の広さからお話をされ日本の文化、義・勇・情を重んじる武士道的価値観の必要性を説き将来への道しるべを示して頂きました。最後になりますが2

日日本会議のオープニングアトラクションに岡崎高校コーラス部の男女生徒が"さくら"をはじめ日本の歌を合唱してくれました。時にロータリーソング"奉仕の理想"を彼らが一緒に大声で斉唱してくれる姿を見て熱いものがこみ上げ声が詰まってしまったのは私一人ではなかったと思います。未来ある若き世代にもっとすばらしい社会を受け継ぐ責任が我々にはあります。会員諸兄のご尽力をご祈念申し上げ地区大会のご報告といたします。本日もどうぞよろしくお願い申し上げます。

幹 事 報 告

・他クラブの例会変更等につきましては幹事報告書のとおりです。



委 員 会 報 告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 78 名 (内出席免除者 14 名) 出席者 55 名	
出席対象者 47 / 65 名	出席率 72.31%
欠席者 23 名 (病欠者 0 名)	前々回修正出席率 100%

〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

- 加藤 良邦君 ①本日講師花岳寺御住職鈴木悦道師をお迎えする事が出来ました。
②講師をお迎えするにあたり竹中義雄さんに大変お世話になりました。
- 杉浦 健次君 } 過日の地区大会多数の皆様の登録参加を頂き有り難うございました。
石川 春久君 } 上げます。
- 中根 佑治君 家族にうれしい事がありました。
- 杉浦 勝典君 11月19日に三男の英行が結婚式を挙げました。早く孫の顔が見たいものです。
明るい家庭を二人で築いてくれるのが願いです。
- 犬塚 敦統君 12 / 7 (木) NHKテレビプロフェッショナルご覧下さい。案内を机に置かせて頂きました。よろしく。
- 竹中 誠君 R I 第2760地区大会、一日楽しく過ごすことが出来ました。会長様、副会長様、幹事様お世話になりました。

〈職業奉仕委員会〉

碧南商工会議所勤労感謝従業員表彰にて300本のタオルを記念品として贈呈

〈ゴルフ部会〉

ガバナー補佐杯 (11月23日) と次回ゴルフ部会 (12月7日) 組合せの案内

卓 話

「忠臣蔵のうら・おもて」花岳寺 住職 鈴木悦道氏

私は吉良の花岳寺の住職をしております。毘沙門さんのような陽の当るお寺ではなくて、忠臣蔵の日陰のほうですね、憎まれ者、吉良の先祖の菩提寺ということで、いつも白い目で見られておりました。最近は少し陽が当たってまいりまして色々話題になる機会が多ございます。今日のお話も「忠臣蔵のうら・おもて」ということで吉良の方の言い訳を聞いていただこうと思います。吉良さんが300年来忠臣蔵の引き立て役で悪の標本みたいになっております。NHKの大河ドラマを支えているのは忠臣蔵と愛知県出身の三



英傑がメインとなっております。20年ほどNHKのドラマの方とお付き合いがありますがNHKの歴史物をやるときに東海道ベルト地帯を離れると視聴率が下がってしまう。3回に2回は中部地区に関係のあるシーンを登場させないとだめである。あまり遠く離れると長丁場のドラマは途中で大体視聴率が下がってしまって最後は惨憺たる状態になる。大河ドラマも一時期一年はとてももたないという事で年2回やった事もあります。年間2本やった事がある。それでも挽回できなくて、また1年にしようという事で戻った。戻って何をやろうとなった時、戦国武将あるいは江戸時代の知名度の高い人を登場させる。NHKの看板ですから1年間の視聴率を20%切らないようにというのがドラマの統括責任者に課せられた無言の圧力になっているようです。過去、忠臣蔵の大河ドラマが4回登場しております。最初に長谷川一夫が大石内蔵助を演じた「赤穂浪士」、その次が「元禄太平記」「峠の群像」「元禄繚乱」です。つい10年程前にやったし、もう4回もやってはくどいではないかと打ち合わせの時に言った事があります。その時のプロデューサーはNHKで10年に1回はやってもいい。10年経つと次の俳優さんが育ってくるし前の印象も薄れている、別の切り口からやればかえって良いんだと、だからその一番の核心は吉良がどの手で浅野内匠頭をいじめるのかと、その辺を皆が期待して待っている。実はその時の裏話をしますとドラマが放送されたのが平成11年だったと思います。この年は、前田利家が生誕400年ということで5年ほど前から石川県知事と金沢市長がNHK会長に直訴していたようです。NHKの会長は利家をやれというような内々の希望を持ってみえたようです。その時のチーフプロデューサーが忠臣蔵をやるということで発表まで内容を明かさなかったわけです。最近では2年前に発表してしまいましたが、昔はNHKの大河ドラマですと陳情がものすごい。それも地元の売り出しの為に有る事無い事色々情報を入れる。結局作る方としては困ってしまう。だからふたを開けるまでは絶対秘密なんです。わたくしが、はじめて関わったのが峠の群像で、資料部の方の相談で、NHKの要求する資料を提出していました。無論私一人では範囲が広いものですから、わたしの知り合いの専門家にも、その人を紹介したりして、なんとか期待にこたえておりました。資料部の小笠原キャップから頼まれ、今、大河ドラマで活躍されておられますが竹千代時代の徳川家康を詳しく知りたいということでその時に紹介したのが静岡大学の小和田教授です。それ以来現在もNHKはずっと小和田先生を使ってみえるんですね。そんな事で私は峠の群像と徳川家康を少し協力しました。その次の「春の波濤」も関わりました。主役の川上貞奴の屋敷が名古屋にあるんですよ。それから、日本の電力王といわれた福沢桃介が中部ですので史跡を案内したり、その資料の一部を私の人脈を通じてNHKに送ったりしました。その次に「独眼流正宗」は深入りしましてワンカットですが演出のお手伝いと勝新太郎の師匠の役で出演もしました。そんなことで段々深入りして行って、その時のデスクをやっていた浅野加寿子さんは広島浅野家の直継のお姫さんで、NHKでも「浅野のお姫」で通じる方ですが、名古屋に新しい局舎が出来たときに、名古屋に招いて名古屋でつくったドラマを全国放送しました。これが「ママの転勤」「おばさんなんて呼ばないで」です。それから東京に帰って朝の連続テレビ小説「あぐり」をつくり平成9年に放送されました。その年に私に、「上京の機会がありましたら遊びに来てください」という手紙がきましたので出かけました。丁度、放送初日の4月7日で、NHKのモニターで放映を見て、その後に紹介したい人がいるという事で古川という「あぐり」のアシスタントディレクターを紹介され、近いうちにNHKが鈴木さんの良くご存知の人を取り上げたいと思いますのでその節は協力してくださいという依頼を受けまして、その年の9月に極秘に吉良町を訪れて、取材していかれました。発表まで2年あるという事で内心びくびくしておりましたが赤穂の方がばらしてしまいました。結果的に忠臣蔵だと分ってしまったのですが、私は尾崎士郎さんをやってくれると思ったんですね。というのも浅野さんが名古屋にみえたときに私がまとめた尾崎士郎の生涯という本を紹介して、浅野さんに依頼してなんとか名古屋辺りでつくってほしいとお願いしまして、豊橋出身で知立の

文化センターにみえる伊与田さんを紹介しましょうね、ということで乗りかかったんですけどもその直後に東京に帰ってしまわれましたので立ち消えになった。「あぐり」がスタートした時に頼まれたので、次年度の大河ドラマに尾崎士郎さんを取り上げると思い込んでしまいました。そうしたら打ち合わせの時に忠臣蔵をやりたいといいますので、また忠臣蔵ですかと言ってしまった。先ほど申しましたように10年に1回はやってもいいんだと。話の始めから終わりまで決まっています。その中で色々の山場が幾つもある。その中でどこを膨らましていったらいいかということで幾らでも作り方がある。最後は吉良が首を捕られる。最後は悪を退治するという一つのストーリーが出来上がってしまっているから、皆期待している。忠臣蔵は最初にドカンと山場が来るんですね。松の廊下の。それからいろんな作戦が立てられて段々と江戸の方へ遺士が攻め上っていく。その辺が戦国時代の都のぼりのドラマを見るようだ。山科の事件だとか、高田の馬場の決闘だとか南部坂雪の別れだとかそういう山が何十種類とある。歴史の上からは、まったくのでっち上げなんですね。討ち入った武士たちは下級武士ですから普通の行動は記録にないんです。記録にないからどんな話でも作り上げられる。そこがいいところで、どんどん山を作っていたのは講談師で、いろいろと得意とする話を一人ずつ作っていくんですね。だから題が下るごとに山がいくらでも増えてくる。神田紅がラジオの対談で言っておりましたが忠臣蔵だけで1年中めしが食っていけるだけの材料があると話しておりました。そんなことで大河ドラマが行き詰まると忠臣蔵をやると、そうすると視聴率が維持できるということで、前田利家は割を食ってしまった。その年の終わりに「前田百万石物語」というのをやったんですが、NHKはこれでごまかしたなと思いました。金沢市長はあんなものではダメだ、大河ドラマをやってくれと泣付いて、それで浅野さんに大命が下って「利家とまつ」という放送をやった。利家というのは戦国武将の中では2番煎じの人で華々しい合戦には全然出てこない。浅野さんも考えて女性を取り上げなければだめだということで「まつ」という妻をクローズアップした。今やってる大河ドラマでも、山内一豊の妻の千代をかなり引っ張り上げていますが、やはり女性を取り上げますと視聴率をなんとか稼げるという事で「利家とまつ」をやって、おまつの方がメインになってしまって夫の利家の方が端になってしまいました。妻が主役になって夫が端（つま）になったという笑い話ですが。忠臣蔵もふたを開けてみると女性がずいぶん活躍しています。打ち合わせの時に、わたしは吉良の名君ぶりをお話したんですが、プロデューサーが「鈴木さんがいくら吉良さんはいいとおっしゃっても、もし本当にいい人だとしても」と「もし」をつけて話したので気に入らなかったのですが、「吉良が悪者にならなければこのドラマは成り立ちませんな」と言ったものですからわたしも気分が悪くなり、せっかく吉良さんの良いイメージが定着してるのに今度また、悪い事をする人とわざわざ宣伝にやってきたのかと、確かに吉良さんが悪者にならなければ、討ち入りが強盗集団・夜盗集団になってしまうから鬼退治と一緒に、吉良さんは鬼にならなければダメですねと。しかし真実の吉良さんの姿はやっぱり善人で、悪人の欠片もない。江戸時代を代表する教養人でもあったし、非常に親切で細かいところまで教えることが、手紙のはしはしに残っております。筆跡も女性に対してはかな文字で相手に解る様な、噛んで含めたような手紙を書きます。相手によって自分を変えていくんです。そういう点では典型的な日本人だと思います。どこから見ても悪人の欠片もない人です。だけど、不幸な事に忠臣蔵の芝居で悪人役にされてしまったから変えようがない。だからそれは承知するが、何の説明をしなくても吉良さんが登場したらあの人はいい人だなということがすぐ解る様なキャスティングをしてほしい、という事を強くお願いしました。そうしたら吉良さんに石坂浩二を使い、妻も演技のうまい夏木マリ、吉良方になります。上杉の家老色部又四郎を松平健、養子になる孫のよしちかを滝沢秀明、吉良さんの愛人浅路を奥菜恵ということで吉良方の登場人物を良い人を選んでくれたんですね。「元禄遼乱」ではじめて吉良方の人物が割合と上のほうで活躍するという事になりました。私が強迫した効果が

あらわれたかなと思っております。わたしも度々収録の場面に立ち会いました。ドラマの進行状況を見ておきますと、松の廊下で切られる前は、非常に明るい表情をしておった石坂浩二が切られてからは、ドラマの中で悪いイメージが付いて回るので、廊下の控えでも一人しょんぼりとしている。セットの中でやりとりをやる。笑い話をしていると、感情の切り替えが出来ないのでお互いに顔を会わせない様にしていたようです。最後の打ち上げの時に全員集合するのですが、石坂浩二だけがない。皆の顔が見たくなくなって、病気だと言って休んだ。私のところにお詫びの手紙がきまして「最後お会いして色々お世話になった御礼をしたかったけれど、9月16日が最後の収録でNHKに用がなくなり9月30日が打ち上げ。9月23日の御中日に東京の菩提寺の萬昌院の吉良さんの前でお参りしました。そうしたら吉良さんの無念さが胸に迫って涙がこぼれました。」というお手紙を頂きました。史実の吉良さんは絶対、芝居で言われているような悪い人ではなくて江戸時代の模範的な武士であった。手紙でも実際眺めて見ますと、「昨日は」とすぐ翌日返事を出しておりますし、「先刻は御意を得」とすぐ追っかけるように手紙を出している。東本願寺への手紙ですが「先刻は御門ぜき様 御使者わざわざお越し下さり きとくのじっぴき仰せくされ 誠にちん重のいたりに」と位の上ではお公家様ですから非常に丁寧な言い回しで出している。じっぴきというのは今の金額にして7千円位ですが、それ位のお金をもらっても丁寧に奉書紙に書いて出している。昔は紙が貴重だったので奉書紙の方が高いくらいですが、このように丁寧な手紙を出している。礼儀作法の先生ですね。吉良流礼法という巻物がたくさん残っています。一番たくさん残っているのが200点以上持っておられる浅野家です。それが代々傳承されている。ですから、分家の浅野内匠頭も吉良流礼法を心得ていたと思いますし、吉良さんが間違った事を教えるはずがない。江戸時代の責任というのは非常に重く間違ったら減俸になるか同じ役は取らせてもらえない。江戸時代は本人だけではなくて子孫まで影響する。家禄を全部めしとられる。家屋敷、財産全部取られてしまう。だから絶対間違えないようにしなければならない。それを教える吉良さんが間違ってしまうと御家は断絶となる。結果的にはあの事件以来断絶となったのですが。そういう立場からも吉良さんは絶対悪い人ではない。これくらいうらの話とおもての話は差異があります。

また、吉良のほうにお越しいただくとその辺のうらの話もご披露できると思いますので遊びにいらして下さい。ありがとうございました。

次回例会案内 平成18年12月6日（水）
「年次総会」次年度理事役員選挙